

授業科目 看護学特論 I	科目概要・形式 2単位 30時間(15コマ) 講義科目	配当年次 博士前期1年次 前期開講	オンライン参加 可・不可 (下記7参照)
科目責任者	福井 幸子		
担当者	福井 幸子、蝦名 智子、小野 恵子、角濱 春美、小池 祥太郎、佐藤 愛、清水 健史、新改 法子、谷川 涼子、出貝 裕子、鳴井 ひろみ、村上 眞須美		
1. 科目のねらい・目標			
<ねらい>			
様々な対象のニーズに対応する専門分野における看護の特質及び看護の機能に対する理解を深め、その関連理論や概念について探究できる。			
<目標>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床看護の対象となる患者（療養者）・家族に対して理解を深める。</li> <li>2. 専門分野における看護の特質や機能について理解を深める。</li> <li>3. 専門分野における関連する理論や概念について探究する。</li> </ol>			
2. 授業計画・内容			
*この科目は選択した科目担当者が担当します。			
【福井 幸子】			
臨床で発生する問題を多角的に検討し、国内外のガイドラインにある理論的根拠等から問題解決方法を探究する。			
【蝦名 智子】			
母性（周産期）看護の対象となる女性と家族および周産期に関連する動向や今日的課題について理解しその解決方法や支援方法の基礎となる概念や理論を探究する。			
【小野 恵子】			
療養者・家族の在宅生活を支える諸制度の基本と動向を理解し、在宅看護におけるケアマネジメントの展開、および在宅看護の基本となる概念や理論について探究する。			
【角濱 春美】			
看護実践・看護技術の根拠となる理論の生成と研究での実証の方法について理解するために、理論と実践との関係について論文をもとにクリティークを行う。更に、看護実践の基盤となりうる研究とは何かを考察するために、研究のデザインを理解するとともに、批判的吟味をし、看護技術の生成や実証のための研究方法について理解を深める。			
【小池 祥太郎】			
侵襲を伴う看護技術を受ける全ての患者に共通する痛みや不安感を理解し、安全・安楽な看護技術を提供するための基本的な概念や理論を探究する。			
【佐藤 愛】			
母性看護学の基盤となる諸理論・諸概念についての理解を深めるとともに、実践・研究への適用について探究する。			
【清水 健史】			
精神看護の対象の精神状態や発達課題について理解し、精神看護に用いられるセルフケア理論、対人関係理論について理解を深め、実践・研究への適用について探究する。			
【新改 法子】			
感染症を取り巻く状況や国内外における感染対策について理解を深め、科学的根拠に基づいた感染防止活動を展開していくための手法や看護技術を探究する。			

**【谷川 涼子】**

小児とその家族を対象として理解するために、小児各期の成長・発達理論やストレス・コーピング理論など小児看護学の基盤となる諸概論・理論について学び、小児看護実践・研究への活用について探究する。

**【出貝裕子】**

高齢者とその家族を理解するために、老化理論や生涯発達理論をはじめとした老年看護学の基盤となる諸概念・理論について学び、老年看護実践・研究への活用について探究する。

**【鳴井 ひろみ】**

がん患者・家族の看護に用いられるストレス・コーピング理論、危機理論、喪失、悲嘆等の理論について理解を深めるとともに、実践および研究への適用について探究する。また、既存の研究結果や文献、個々の体験に基づいて、がん看護の現状の課題を分析し、今後の展望について洞察する。これらを踏まえて、がん看護の質向上をめざした実践・研究・教育への活用方法を探究する。

**【村上 眞須美】**

質の高い看護ケアを提供することをめざし、看護職が所属するヘルスケア関連組織について、組織論・組織行動論を基盤に、現状と照らし合わせながら看護管理の在り方を検討する。

**3. 教科書、参考書**

特に教科書は指定しない。各教員が資料を配布または講義中に紹介する。

**4. 成績評価方法**

「レポート 30%」「プレゼンテーション 40%」「授業への取り組み 30%」で評価する。

**5. 受講要件**

なし。

**6. 社会人学生に対する配慮**

講義日時は担当教員と相談して決められるよう配慮する。

**7. その他**

オンライン・オンデマンドを希望する場合は事前に担当教員に相談する。

オンラインの場合、基本として webex とするが zoom もありうる。

事前に担当教員と連絡をとり、課題などの指示を受けること。